



有家中だより No5

令和8年 7月17日

南島原市立有家中学校

校長 本 多 洋 二

待望の夏休み！

いよいよ明日から生徒待望の夏休みが始まります。長い夏休みをどう過ごすかで、2学期以降の学校生活に影響します。規則正しい生活でリズムを崩さないようにご家庭でもご配慮ください。

1学期の終業式で、次のような話をしましたので、紹介します。

1学期を振り返ってみて、よく頑張ったなと自分自身に言えるでしょうか。4月の始業式の時、人と比べなくていい、比べるのは、昨日の自分。昨日より今日、今日よりも明日、少しずつ成長している自分であってほしい。小さな一歩でもいいから、少しでも前に進んでほしいという話をしました。どうでしょうか。4月よりも少しでも自分は成長したなあ～と思える人はいますか。もしそう思えるのなら、その一歩は決して小さくありません。その積み重ねが、皆さんの未来をつくっていきます。1学期を振り返ってみると、皆さんは、自分たちの手で有家中学校をよりよい学校にしようと努力してきました。(中略)私は、その姿をとっても誇らしく思いました。自分たちの手で、有家中学校を創りあげようという姿勢が、随所にみられ、成長を感じることができた1学期でした。

夏休みは、学校の時間割に拘束されず、自分で生活リズムを作っていかなければなりません。夏休みを充実したものにするためにも、生徒会新聞に書かれていた3つのポイントを、ぜひ大切にしてください。

そして、私からは、もう一つお願いがあります。それは、「なりたい自分と感謝を忘れずに過ごす。」ということです。4月、入学したとき・新たな学年に進級したとき、おめでとうと言われたあのときの気持ちを思い出してください。

みなさんは、「こんな自分になりたい」という目標を立てたはずです。そのとき考えた「なりたい自分」と「今の自分」、比べてどうでしょうか。

(右上へ♪)

(左下からの続き)

「なりたい自分」には、まだまだ遠いなと思った人は、近づくよう、諦めないでこの夏休みも努力してほしい。「なりたい自分」に近づいたなと思う人は、2学期、更に一歩先の「なりたい自分」を決めて、それに向かって努力してほしいと思います。

もう一つ忘れてはいけないことがあります。それは「感謝」です。皆さんが、今日まで頑張ってくれたのは、一人の力ではありません。(中略)家族。地域の方々。友達。先生方。多くの人の支えがあったからこそ、今日という日があります。支えてくださった方々に感謝の気持ちを忘れないでほしいと思います。(中略)

明日からの夏休み中も「なりたい自分」と「感謝」を忘れずに努力することができる人は、夢を実現できる人です。

(中略)

「人は、夏休みで変わります。大きな出来事ではなく、一日一日の小さな積み重ねが、人を大きく成長させます。この夏を『あの夏が自分を変えた』と言える夏にしてくれることを願っています。」 <生徒会新聞>



<生徒会が示した夏休みを有意義に過ごすための3つのポイント>

- 一、生活のリズムを整え、計画的に過ごすこと。
- 一、有中メディア宣言を守り、健康と安全を大切にすること。
- 一、家族や地域との時間を大切にし、感謝の気持ちを伝えること。

自分の考えや、人の受け売りです。気軽にお読みください。

『オール1から高校教師に・・・』

愛知県のある高校にいらっしゃるM先生、M先生は新しいクラスを受け持つと、まず、こんな自己紹介から始めます。黒板に「国語・数学・理科・社会・英語・音楽・体育・技術・美術」と9つの教科の名前を書き、その下にすべて「1」と書き込む。

「これは、何だと思う？これは、俺が中学1年のときの成績。オール1！ どうだ？ 見たことないだろう！」ザワつく教室。生徒たちは、疑問の声をあげ始めます。

「え～？ うそ～！」「じゃあ、何で先生になれたの？」「中学からがんばって、勉強したわけ？」M先生は、その質問に答える代わりに言います。

「それじゃあ、中学の最後の成績も書いてみよう。すごいぞ！」

M先生は「音楽」と「技術」の二つだけを「2」に書き換えます。あとは、すべて「1」のまま！「完璧な落こぼれ」・・・M先生の場合は、そうでした。中学3年生のとき、書けた漢字は自分の名前だけ。英語の単語はBOOKだけ。九九は2の段までしか言えない。ここまで落こぼれてしまった一番の原因は、小学校の頃から受けた「いじめ」だったといえます。うつむいて過ごすだけの中学を卒業して、大工さんの見習いになったものの2年で挫折。それからというもの、いろんな職を転々としながら、パン屋さんでもらったパンのミミをかじって、1ヶ月を13円でしのいだこともあります。悪いことは続くもので、両親は相次いで病死。Mさんは18歳で、天涯孤独の身になりました。こんなM少年をかすかに支えてくれたもの、それは街で出会った同級生のバンドに入れてもらったこと。そして中学から通っていた少林寺拳法でした。ある日、道場に黒帯を締めた入門生がいました。国立大学で少林寺をやっていて、社会人になって中断したものの、もう一度この道場でやってみたいという女性でした。彼女がM先生の人生を大きく変えた、後の奥さんです。何かに導かれるように、自然に始まった二人の交際。当時、建設現場で働いていたM先生は、ある技能試験を受けるため、彼女に助けを求めます。

「あのさあ、分数の足し算を教えてもらえない？」

分数の足し算をするためには、九九が基礎になります。その九九を知らないことは、すぐにバレてしまいました。彼女にしてみれば、さぞかしショックだったことでしょう。けれども二人の心の糸は、途切れることはありませんでした。そしてある日、二人に運命のときが訪れます。

「夜中に面白そうな番組やってたの。見てみない？」彼女が貸してくれた一本のビデオテープ・・・。家に帰り、粗大ごみ置き場で拾ったビデオデッキにそれを入れ、再生ボタンを押しました。『NHKスペシャル アインシュタイン・ロマン』物理学者たちが「光」というものの正体を追い求めていくドキュメンタリー番組でした。初めて体験する知的な興奮！感動！分数計算も出来ない一人の青年が物理学の世界の扉を叩いた瞬間でした。

「もう一度、勉強がしたい！」

M青年が、何かに取り憑かれたように「小学校3年生のドリル」を買ったのは、23歳のときでした。翌年、高校の定時制に入学。猛勉強を重ねて全国の模擬試験で、上位の成績を修め、数学は愛知県内でトップとなる。27歳で、国立大学に合格。以来9年間、大学院まで研究に没頭。数学の教師として、母校の高校に帰ってきたM先生は言います。

「誰にでも、輝かしい可能性がある！ちょっとしたキッカケさえあれば、誰でもがんばれる。（オール1の人間でも、がんばれば人生は変えられる!皆さんは何を感じただろうか。）